

# 激変する経営環境に対応



中辻 英二 中央設計技術研究所代表取締役社長

■官民連携時代に対応  
生匠上M&A、指導者  
成業務改善、CSCプラ  
当社は一昨年、創業70  
周年を迎えました。この  
節目をきっかけとして、  
昨年10月に、5、6年先  
までに達成すべきミッシ  
ョン等を表した「2025  
2025ビジョン」中期  
経営計画」を策定しまし  
た。

「ビジョン達成に向け、人材育成を目的に立ち上げた「経営者育成会議」のメンバーが自ら中心となつて議論し、全国展開水コ5位、官民連携総合事業、研究開発商開、顧客満足信頼品質、ACKG連携海外挑戦、

型番異力の強化等に努め、成長、関東、関西、中国地でも業務を受注できるとなりました。現在、事業エリアを全国に広げるため、社員一人ひとりが技術力・営業力の強化に努めています。こうした中、最も重要な「官民連携総合事業」だと思っています。水需要の減少等を受けた広域化や施設の共同化、民間活力の活用拡大に向けた新たな発注方式の採用といった水道界のトレンドにおいて、コンサルタントの重要性が高まってくるものと考えています。

当社では、来るべき官民協働時代に備え、人材と技術の育成に努めてきました。そのような中、砺波広域圏事務組合水道事業所が発注する松島浄水場更新事業設計・施工一括発注工事（DB）を他の4社と設けた共同事業体により受注することができ、工事は昨年3月に竣工しました。

白山市と公有財産無償貸付契約を締結し、同市の施設「ふるさと保養センター」清流の質を受託し、この施設に計画的投資した天然温泉旅館「二丈温泉 清流」としてリニューアルし、運営しています。この施設の運営とは異なる、行政側の考え方に基づいた事業経営の経験も積んでおり、今後の下水道におけるコンセッションの受託に活用していきたいです。

利用料金の設定に対してある程度の裁量があるのが、コンセッションの特徴です。一方で行政の考え方が一体となった施設運営や料金設定が求められます。今回施設経営の経験を、上下水道料金の設定にも生かしていきたいと考えています。

■ICTで事業経営を効率化  
ICTを活用した業務効率化の提案は力を入れています。当社では約10年前にシステム開発部門を設置し、GIS等を

開発してきました。昨年10月に福岡市で開催された先進展に、資産管理、普及計画、維持防災、事業経営から構成される「アセットマネジメント手法を用いたICCの最適化等」経営を支援する「水道総合管理システム」を出展したところ、デモに行列ができるほど好評でした。当社が現在業務を実施しているある広域化検討業務でもアセットマネジメント技術を用い、送水の最適化によるエネルギー削減や料金シミュレーション等に活用しています。

水道サービスは未来に広がります。今後、広域化、施設の共同化に関する業務発注が増加すると思われ、これが関連し、京都府管水道の久御山広域ポンプ場の業務を受託させていただきます。いただいたことは、良い経験になったと考えています。

京都府管水道では、淀川3川（宇治川・木津川・桂川）から取水した水を浄水場で浄水し、その3浄水場からの送水管を同ポンプ場で接続し、3水源の水を相互融通できる体制をとっています。

いる機器類の監視を人工知能で行うロボットです。人材不足に対応するためのロボットであり、人間の完全代替となるロボットではなく、人間の0.3~0.4人の仕事をして維持管理をサポートするようなものを考えています。

元の記事組合において洗管の順序、バルブの開閉時の特徴といった情報を伝承して、いかに好む効かしています。